

「自分の力を過信することなく堅実に事業を続け、
模索しながら前へ進めばいいと思います。」

チャレンジする人



株式会社オルタパンチ
代表取締役 川原 有稀さん

東京出身の川原さんは平成十六年、IT分野でのビジネスチャンスを求めて鹿児島にIターンした。「以前観光で訪れた時、海の美しさに魅せられていたこともありましたが、たとえば都心で起業しようとする、競争相手は多いし、ランニングコストも馬鹿になりません」。堅実な経営のための地方起業という選択肢だ。

学校を出たあとと美容師を経て、大手メーカー系に就職。研修と実戦を積み重ねる中でIT技術を身につけた。その後、起業した先輩技術者のもとで右腕として働き、会社づくりに関わる知識を得た。「小さな会社だから、労務管理や資金調達など経営面についても関わることに。その経験がいま生かされています」と川原さんは振り返る。

独立後、フリーで全国を飛び回っていたが平成二十年七月、「百年に二度の不況と言われていたので、逆にチャンスを狙って」鹿児島市を本拠地に法人化を果たした。現在、ホームページ作成のほかオリジナルのソーシャルネットワークシステム販売などを手がけている。さらに昨年十月には慶応義塾大学経済学部の通信課程をスタート、仕事の合間を縫って猛勉強に励む日々。川原流のユニークなチャレンジを続けている。

チャレンジする人

「ミニコミ紙づくりを通して得た`人・もの・心、という
財産を地域に還元し、次世代をサポートしたいです」



特定非営利活動法人
「地域サポート よしのねぎぼうず」
理事長 永山恵子さん

NPO法人「地域サポート よしのねぎぼうず」の設立は平成十七年。高齢者世帯を対象とした生活支援のほか子育て支援、防犯パトロールなど、きめ細かい地域支援活動をしている。

代表の永山恵子さんが地域活動に携わるようになったきっかけは、母親として参加したPTA新聞づくり。「ものづくりの面白さに目覚めたのと同時に、郷土をもっと知りたいという思いがふくらみ」独自のミニコミ紙をスタート。平成五年から平成十四年まで十年間にわたって年六回、自分の足で動き、自分の言葉で、吉野の情報を発信し続けた。

「地域の方に愛読いただいたミニコミ紙でしたが、取材を通して見えてきた地域の課題に取り組みたいとの思いが強くなって休刊することになった。活動を通して知り得た`人・もの・心`という財産を地域に還元したいとの思いもあった。休刊後は(財)地域活性化センターの全国リーダー養成講座などを受講、情報収集を経てNPO法人設立にこぎつけた。次の目標は、次世代に夢やパワーを伝えること。「一人ひとり性別や立場を超え、自分にできることで輝いていけばいい。私はそのサポート役ができれば」。永山さんのチャレンジは続く。

「従業員の子育て支援策で始めた託児サービスは、
お年寄りにとっても、何ものにも替え難い良薬」

チャレンジ支援をする事業所

株式会社シヨコラは、市内二カ所の施設でグループホームや通所介護等の高齢者福祉事業を展開する。三十五名の職員のうち八割を女性が占め、平成二十二年二月から他病院との共同運営による託児事業を開始。県の「かごしま子育て応援企業」認定を受けた。

「近年、介護の現場には大学を卒業して入ってくる若い女性が増えました。ハイレベルの知識や技能を身につけた人が、出産や子育てによつて辞めざるを得ないという状況は改善するべき。介護のスペシャリストを育てるためにも子育て支援は必要です」と、社長である医師の西本紀郎さん。高齢者にとっても、介護者は交代しない方がいいという。

託児室では、有資格の保育士が生後二カ月から小学校入学前までの子どもたちを預かる。一時保育や病後保育にも対応しており、現在、数名の職員が利用している。

スタートして半年、思わぬ副産物もあった。「子どもたちの声で重い認知症の方が笑顔になるのには驚きました。またお年寄りに対する子どもたちの自然なやさしさにも驚かされます」。ラテン語で「人が集まる」という意味を持つシヨコラの在り方は、これからの少子高齢化社会に適した一つのモデルのようだ。



～高齢者福祉事業所が実施する子育て支援～
株式会社シヨコラ